

**(一社) 日本環境教育学会九州・沖縄支部**  
**令和4年度支部総会・研究集会・会員の集い開催について (ご案内)**

謹啓、厳寒の季節です。皆様、寒さにもコロナ禍にも負けずにお元気でお過ごしでしょうか！？このたび、九州・沖縄支部総会ならびに会員の相互交流を目的に研究集会・会員の集いを開催いたします。

コロナ禍、オンラインでの交流に慣れ親しんだ感じですが、年に1度程度は対面リアルでの開催ができればと考えています。運営委員一同は、支部会員の皆様方に直接お会いして様々なお話を伺うことを楽しみにしています。※オンラインでも参加可です。

下記の要領にて開催致したいと思えます。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

2023年2月18日

(一社) 日本環境教育学会九州・沖縄支部  
運営委員：三宅博之

記

●期 日：2023年3月20日(月) 13:30 ~ 21日(火・祝) 12:30 1泊2日

●会 場：元気の森「かじか」&美里自然学校(熊本県美里町)

<https://kajika.town-misato.com/> ※施設詳細ご確認下さい。

●参加者：(一社)日本環境教育学会九州・沖縄支部の会員及び、関係者、その他。

※最少催行人員：5名から実施する。

●参加費：7,000円/1名程度(1泊2食、交流会費、実費)

※現地までの交通費は各自で負担のこと。公共交通機関(JR)の最寄りの駅は、松橋ですので、そこまでお迎えに行くことも可能です。ご連絡ください。バスの場合は、熊本交通センターから約50分で美里町に到着いたします。

●主 催：(一社)日本環境教育学会九州・沖縄支部

【参加受付事務局】山口久臣 〒861-8039 熊本市東区長嶺南2丁目5-31

(一社)アイ・オー・イー内

E-mail：[boss@ioe-j.com](mailto:boss@ioe-j.com) 携帯電話：090-1369-6360 FAX. 096-387-7139

◆参加のお申し込みの受付：別紙参加申込票(もしくはオンラインフォーム)に必要な事項を記載の上、PCメールにて返信して下さい。

**支部総会の開催について**

令和4年度、九州・沖縄支部総会を開催いたします。ご欠席の方は、参加申込票へ委任状の記載をお願いいたします。オンラインによる出席も可能です。

日時 令和5年3月21日11時~

会場 元気の森「かじか」会議室

会員の皆様のご参加をお願いいたします。出欠は、参加申込票にて受け付けます。

●日程プログラム案： ※オンライン参加も可です。

第1日目3/20(月)

10:00 【オプションプログラム】フィールドワーク：美里フットパス

※希望者のみ。参加費：実費。

13:00 受付（昼食を済ませて、ご集合ください）

13:30 開会：趣旨・目的、当日プログラム等の説明

13:40 参加者の自己紹介

14:20 支部研究集会 趣旨説明

14:30 2. 環境教育に関わる講和、事例報告や紹介等（テーマと講演者は調整中）

16:00 3. ディスカッションやワークショップ等

17:00 温泉リラクゼーション等、休憩

19:00 情報交換会と交流会 ※夕食も兼ねる。

第2日目3/21(火)

09:00 (一社)日本環境教育学会九州・沖縄支部の会員による活動報告等

(発表をご希望の方は、テーマと氏名を記してお送りください。発表時間は10分程度とします)

11:00 令和4年度 (一社)日本環境教育学会 九州・沖縄支部総会

12:30 終了・解散

※若干、変更になる場合もあります。

[準備物]

●各自で用意して頂くもの

各自の活動資料類

宿泊に必要なもの

その他

●事務局で準備するもの

関係資料類、情報資料類

PC・プロジェクター

スクリーン

受付セット

ワークショップ・セット

事務用品

領収書

茶菓類

交流会関係（飲み物など）

## 【参考資料】

### ○「自然学校研究会」内容等

#### 【研修、学習、論議のポイント】

1. 環境教育の具現化としての「自然学校」について
2. 自然学校と地域づくりとコミュニティ・ビジネス&ソーシャル・ビジネスについて
3. 自然学校とSDGsのローカル・アジェンダについて
4. その他のテーマ、課題や下記の「自然学校研究会の展開への課題、ポイント」等

### ○環境教育の具現化の1つである「自然学校」について多角的で多様な立場から検証、研究する。

- ・自然学校のCPMS（C：目的&社会的使命 P：事業・プログラム M：管理・経営 S：仕組み）について研究する。げん
- ・自然学校の社会的な目的（コンセプト）と使命（ミッション）について検証する。
- ・具体的な自然学校事業について調査・研究する。
- ・コミュニティ・ビジネス化（CB化）、ソーシャル・ビジネス化（SB化）と社会的企業としての自然学校について研究する。
- ・自然学校の多種・多様・多彩なネットワークによるパートナーシップ事業について研究する。
- ・今後の自然学校の人材育成、若手育成、次世代への継承について検証する。
- ・今後の地域づくり・地域創生の拠点としての自然学校の役割と機能と社会的使命について考える。
- ・自然学校事業の仕組みづくり、広報戦略について研究する。
- ・今後の自然学校の環境教育と社会的ポイントについて考える。
- ・SDGsのローカル・アジェンダの1つの拠点としての自然学校について研究する。 等など

### ●自然学校研究会の展開への課題、ポイント 等

#### 1. 日本の自然学校の変遷のポイント

その1. 1980年頃に米国より“Environmental Education（環境教育）”が輸入される。

その2. 1990年代より、日本国内に“環境教育”が広がる。

その3. 1996年に東京で、“自然学校宣言！！”フォーラムが開催される。

1990年代頃より、全国に自然学校が広がり始める。

その4. 2006年に熊本で、九州の“自然学校宣言！！”フォーラムを開催。

その5. 2010年の自然学校全国調査で、全国に自然学校が約3,600とカウント。

#### 2. 平成26年度に「九州自然学校協議会」のネットワークの設立。

※16自然学校の参加から現在、九州内の33自然学校がネットワーク登録。

#### 3. 自然学校の目的と機能

- 1) 野外教育、環境教育、自然体験活動、体験学習、ツーリズム等の事業化と実践の場。
- 2) 地域づくり、地域振興、地域の活性化への地域における1つの拠点。
- 3) ESD、SDGs学習の一拠点。（SDGsのローカル・アジェンダの1つの拠点）

#### 4. 地域づくりのための事業化（CB化&SB化）へのポイント

・その地域の資源や素材を活用しながら、その地域の課題・問題を解決して行くことを事業化、ビジネス化していくこと。

#### 5. 今後へのキーワード：

- ・コミュニティ・ビジネス（CB）&ソーシャル・ビジネス（SB） ・環境教育の具現化
- ・社会的企業（Social Enterprise） ・地域社会経済（Social Economy）

- ・ 中間支援事業（組織）      ・ 連携と協働（ネットワーク&パートナーシップ）
- ・ 地域づくり      ・ 人材育成      ・ S D G s      ・ S D G s のグローバル・アジェンダ

## 6. 自然学校の今後展開への課題

- ① 今後へ向けての自然学校の類型化とその機能の活用。
- ② 関係する法令に関すること：旅行業法、旅館業法、輸送法、食品衛生法、
- ③ 人材養成：リーダー、プロデューサー、マネージャー、コーディネーター、ファシリテーター、ガイド&インタープリター等
- ④ 地域づくりの拠点としての自然学校のコンセプト&ミッションの確認と実践。
- ⑤ 自然学校の社会的役割と使命の周知。
- ⑥ 自然学校の具体的な経営手法と実践 ※モデル事例の選考。
- ⑦ 環境教育と E S D と S D G s

## ○ 「自然学校研究会」提案者&案内者及び、連絡先

山口久臣（やまぐちひさおみ） Yamaguchi Hisaomi  
自然学校プロデューサー&ツーリズム・プロデューサー  
一般社団法人アイ・オー・イー代表理事

【事務所】〒861-8039 熊本市東区長嶺南2丁目5-31

TEL. 096-387-6922 FAX. 096-387-7139      (HP) 090-1369-6360

E-mail : boss@ioe-j.com (山口専用)      URL : <http://www.ioe-j.com>